

金子林産有限公司

おが粉の生産性改善のため 新規設備投資を行い競争力を強化する



近年、きのこ生産において菌床栽培が主流となる中、おが粉の生産能力が不足。おが粉の生産性向上を図るため新規に最新設備を導入した結果、従来風送していたおが粉を全量搬送用コンベアで受けることが可能になり、生産性が向上し、出荷台数増に結びついた。

きのこ栽培用のおが粉生産が需要の伸びに追いつかない状況

当社は、丸太やおが粉の販売、木製品の製造を行う木材業者であり、現在、主としてきのこ菌床に使われるおが粉販売が全体の8割を占める。

国内のきのこ需要は拡大傾向にある一方、おが粉生産業者は関東甲信地域に3社しかなく、近年、需要に供給が追いつかない。当社は全国シェアの6%を生産している。

当社は長年にわたり、樹種とおが粉のチップサイズと形状を顧客であるきのこ栽培業者の要望に合わせて対応し、高い信頼を得てきた。材料調達、

生産、トラック配送の一貫体制を構築しているからだ。こうした強みを生かしつつ、生産性を改善し、顧客から求められている生産能力の増強が必要不可欠となっている。



お が 粉

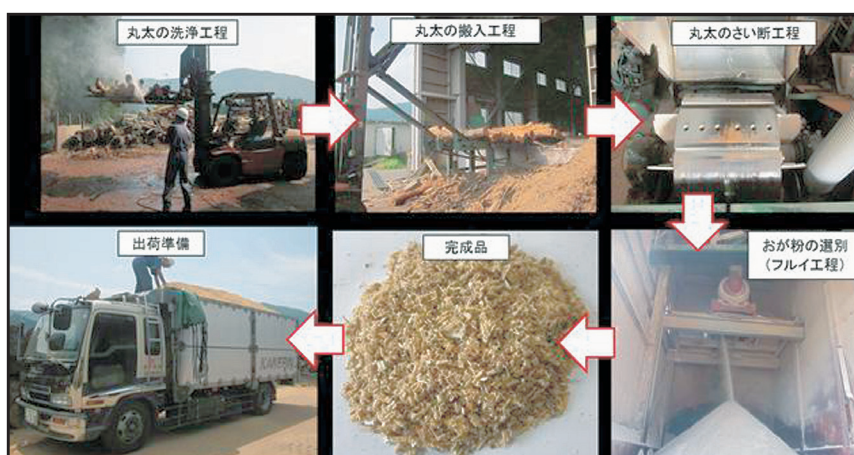
最大の課題である生産力増強に向け、新たにおが粉製造機導入を決定

当社が改善すべき個別課題には、①原発事故の放射能対策として丸太の洗浄作業を行うようになっているため生産性が低下し、コストも上昇する、②きのこ栽培業者からの一層の生産性・品質向上の要望に加え、少量ながら

顧客である畜産業者にも対応しなければならないが、どうしても後回しになりがちである、③おが粉が変わるごとに3本のボルトがついた刃を6枚交換する必要がある、その作業に40分も要してしまう、④細かい粒子の場合、フルイの工程で時間がかかり過ぎ、通常の20%以下の生産量しか出荷できない、⑤海外輸出の引き合いもあったが、上記のような理由からとても対応できる状況にはない、といった生産力増強、フルイ工程の能力改善、少

量品種対応、段取り容易化の改善、コスト上昇対応などがある。

これらに対し、新規の設備導入、人海戦術、外注などを検討し、設備の導入を決めた。



完 成 ま で の 工 程

生産力増強、フルイ工程の能力改善、段取りの容易化など全ての課題を解決

生産力増強については、従来スクリーン(網)からおが粉が出たら、風でヤードに送っていたが、新方式では、おが粉は全量搬送用コンベアで受けることになった。

ネジやクギの混入がクレーム対象となっていたフルイについては、旧工程では1回のみフルイだったが、新規購入した機種には、2回目のフルイをかける専用スクリーンが完備され、多種多様な粒子の分別が可能となり、フルイ工程の能力改善・少量品種に対応した。

従来、段取りについては、刃物の交換作業に多くの時間を要していたが、新機種はワンタッチで交換できる仕様となっている。

新機種は、起動モーターの省エネ化がなされ、生産性の向上とリードタイムの短縮が可能となった。



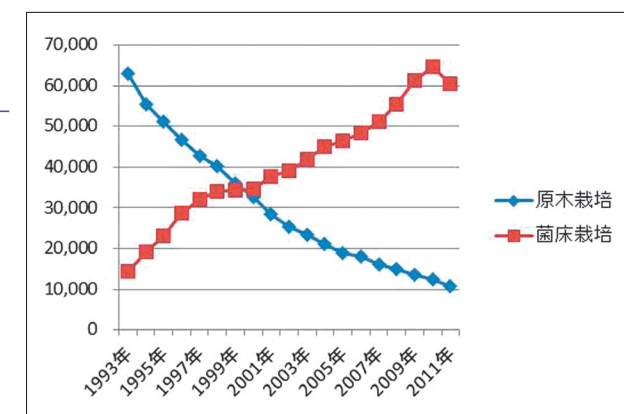
生産性関連項目	現状値	目標値	結 果
刃物交換(段取替所要時間)	40分	15分	20分
菌床おが粉の生産能力(1時間あたり)	20m³	30m³	30m³
昆虫用おが粉の生産能力(1時間あたり)	6m³	12m³	10m³
トラックの運送回数(1日あたり)	5台	8台	8台

きのこ栽培向けおが粉シェア9%を目標に、新分野の生産も拡大

きのこの国内総生産量は毎年約2~3%ほど成長を続け、菌床比率が高まっていることもあり、当社に対する需要は増加の一途である。

今回のプロジェクトにより、生産能力増強に成功したことから国内シェア6%から5年後には9%を目指す。きのこ分野では100社ほどの取引先を持つが、さらに50社ほど増やしていく。

生産力増強を武器に、カブトムシ・クワガタなどの昆虫用、フラワー用オアシス、家畜の寝床用など新分野の取引も拡大していく。



栽培方法別きのこ生産量
2000年に逆転した。2011年は原発による影響で菌床栽培は低下した。



事業者名/金子林産有限公司
代表者名/代表取締役 金子 敬
設立年/1948(昭和23)年
所在地/桐生市黒保根町水沼189
電話番号/0277-96-2706

URL / kanekowood.com
資本金額/300万円
従業員数/17人
業種/木材・木製品製造業、林業